左京区保護司会会長賞・京都新聞賞

# ルーティーン

京都市立大原小中学校九年　飛田　夏希

毎朝、すれ違う人がいる。登校中に見かけるようになり、いつの間にか「おはようございます」と言い合うようになっていた。名前も、どこからきているのかも知らない人。だけど、挨拶をすると、なんとなく気持ちよくて、朝から爽やかな気分になる。

私が小学校五年生の時、学校の課題で、ルーティーン活動というものをしていた。毎日のルーティーンを決めて、達成できたかを振り返る。私は、「家の手伝いをする」、「ストレッチをする」などを行っていた。その中の一つに、「登下校中にすれ違った人に挨拶をする」というものがあった。なんとなく始めたルーティーンだった。緊張して声を出せない日もあった。無視されて悲しくなった日もあった。そんなとき、「私が挨拶をしたところで何も変わらない。もう面倒だな」と思ってしまった。何のために私は挨拶をしているのだろう。課題だから？でも、それだったら挨拶でなくてもよい。私はもう一度、挨拶をする意味を考えてみた。ふと、通りすがった人の笑顔が浮かんでくる。そうだ、私は、あの顔を見るため、あの爽やかな気持ちを味わうために挨拶をしているのだ。笑顔で返ってきたときの嬉しさは、言葉では言い表せない。なんだかドキドキするあの感じ。地域のために自分も何かできている気がして、達成感があった。

それから四年たった今でも、このルーティーンは続けている。地域の人からも声をかけられるようになり、自分も地域の一員として認められたみたいで、なんだかうれしく思っている。

こんなあたたかい地域で育った私は、少年犯罪のことをあまり知らなかった。授業で少し習ったり、本で読んだりしたことがあったが、全く身近に感じず、このことについて深く考えたことがなかった。そこで、調べてみると、私の住む京都では、少年非行を犯した人数は年ごとに減っていた。しかし、二〇二二年から二〇二三にかけて約三割増加し、今後も増加傾向になる可能性が高いらしい。新型コロナウイルスの流行が収まり、人々の行動が活発になったことが背景にあるそうだ。また、京都は、全国平均と比べて、少年犯罪率が高い。これを知って、少し驚いた。

私の住む地域で、少年犯罪が起こったことなど、聞いたことがない。そもそも、なぜ、子供が犯罪をしてしまうのだろうか。大きな要因として挙げられるのは、家庭や社会の環境だそうだ。親からの虐待や育児放棄、貧困、学校での生活など。周りに信頼できる家族や友達がいることは、当たり前ではないのだ。

私の住む地域で、こういった環境がないとは言い切れない。だから、少年犯罪が少ない理由は、他にもあるのだと思う。私は、「地域のつながり」が一つなのではないかと感じた。まちを歩いていれば地域の人に出会い、声をかけられる。

「おかえり」

「大きくなったなあ」

私の地域の人は、みんな親切で、私と家族のように接してくださる。以前に、この地域のつながりを改めて実感した経験がある。

学校が終わり、家に着くと、まだ家族が誰も返ってきていなかった。そこで、鍵を取り出そうと、かばんの中に手を入れた。あれ？いつもの場所に鍵がない。鼓動がはやまる。もう一度探してみるが、やはりそこに鍵はない。どうしよう。お母さんに怒られる。私は来た道を戻ろうと、駆け出した。やばい…。見つからない。息が切れてくる。涙をこらえながら探していたそのとき。

「なんか探してる？もしかして、これ？」その人の手の中にあったのは、ピンクのケースに入った、私の鍵だった。私は、とても安心した。何度も礼を言って受け取り、再び家に帰った。

私の地域の人は、いつも子供たちのことを見てくださっていて、ときには助けてくださる。こんなにもあたたかい人々がいる中で、犯罪ができるだろうか。私だったら、たとえどんなに自分を取り巻く環境が悪かったとしても、犯罪をしようと思わないし、きっとできない。

このまちを守るために、私は、あのルーティーンを続けたい。挨拶をすることは、お互いの気持ちをあたたかくし、地域のつながりを深めるだけではない。地域の人に守ってもらうきっかけにもなる。地域の人に見守られていたら、非行なんかできないし、そんなことをする前に、手を差し伸べてくれるだろう。

一人一人の小さな行動や意思が、地域を変えることができる。みなさんは、自分のまちを守るために何をしますか？何ができますか？